



グローバルCOEプログラム
境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界

「業火」展示記念

2月7日(日)

13:30～入場無料

GCOEプログラム第2期展示
「知られざる北の国境」関連
市民セミナー

命をかけた画家・香月泰男

講師 坂倉秀典 「香月泰男美術館」元館長

満州で敗戦を迎え、シベリアに抑留された香月泰男画伯。俱知安で美術教師も務めた画伯が30年近くをかけ残した「シベリヤ・シリーズ」。その代表作「業火」の習作が、初めて北海道の地を踏みました。これを記念して「香月泰男美術館」元館長の坂倉秀典さんに「シベリヤ・シリーズ」をめぐる舞台裏、画伯のお人柄など知られざるエピソードを含めてご講演いただきます。

講演に続いて「北海道と香月泰男」に関するトークショーを開催いたします。
進行役：岩下明裕（北海道大学スラブ研究センター教授）

会場 北海道大学総合博物館 1階
「知の交流」コーナー [定員60名]

* 事前申し込み不要 * 定員を超えますと立ち見となる場合がございます。

かづき やすお
香月 泰男 (1911～1974年)

山口県の三隅町(現：長門市)生まれ。幼少時より、雪舟の流れを汲む絵に親しみ、自然と画家への道を志す。1931年、東京美術学校(現：東京芸術大学)に入学し、グラマンク、ゴッホ、梅原龍三郎などに傾倒し、東西絵画の融合を模索しながら独自の絵を求めた。34年、国画会に初入選。39年には文部省美術展覧会で特選を取るが、太平洋戦争勃発により、42年、軍隊に召集される。47年の復員後、約30年をかけて描いた「シベリヤ・シリーズ」全57点は、黒と褐色を中心とする独自の手法と印象性を持ち、香月個人の戦争体験・シベリア体験を表した代表的作品群である。70年、評論家の立花隆氏が香月の抑留体験や「シベリヤ・シリーズ」の成り立ちについて聞き書きし、『私のシベリヤ』という一冊の本にまとめた。後に、立花氏は香月のシベリアでの足跡を全てたどり、その模様はNHKスペシャルとして放送された。04年には立花氏自身の調査報告を加えて香月の体験をとらえ直した『シベリア鎮魂歌——香月泰男の世界』(文芸春秋)が出版された。

本セミナーに関するお問い合わせ先

SRC 北海道大学スラブ研究センター「境界研究の拠点形成」事務局
tel: 011-706-3314/3307 mail: gcoe-jimu@slav.hokudai.ac.jp
<http://www.borderstudies.jp>

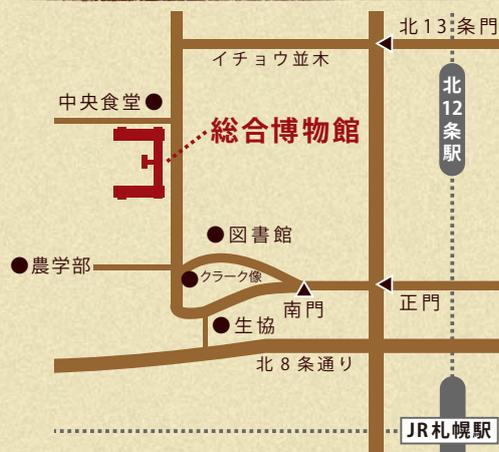
北海道大学総合博物館

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 tel.011-706-2658/3607
<http://www.museum.hokudai.ac.jp/activity/seminar>



THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM

アクセスマップ



博物館からのお知らせ

総合博物館2階「知られざる北の国境」展にて、
香月泰男画伯の絵画「業火」と木彫りの小作品を
展示しております。(～3月28日)
どうぞお立ち寄りください。

